

〈自分たちでつくるみんなの学校 ～みんなが笑顔になる学校を目指して～〉



成美っ子

学校だより 令和6年度No.4

「世界を身近に感じる夏に 東京オリンピックボランティアに参加して」

教諭 山谷 萌

もうすぐ夏休みです。7月26日からは、フランスのパリでオリンピックが始まります。東京からパリの距離は約9700km、飛行機では15時間程かかります。今まで日本では、1964年と2021年に、東京で夏のオリンピックが開催されました。2021年のオリンピックでは、約75000人のボランティアが、大会に関わっていたそうです。私は、2021年には、千葉県で教員をしていました。人生の中で、オリンピックが日本で開催されることは滅多にないと思い、大会ボランティアに参加しました。ボランティアには、いろいろな種類があります。競技や式典の補佐、通訳、選手の送迎、ボランティアのサポート等…。私は、成田空港で各国の大会委員会を迎える「アテンド」の働きをすることになりました。

アテンドは、まず、ボランティアの待機する部屋へ行き、その日に到着する飛行機の情報を確認します。次に、ボランティアでグループを組み、分担をします。到着時間になったら、搭乗口に向かって大会委員をお迎えし、入国手続きや荷物の受け取りを手伝い、送迎車まで案内します。やり方が分からず、困ることもありました。しかし、ボランティア同士で助け合うことで、だんだんやり方が分かるようになっていきました。コミュニケーションは、英語や中国語等の外国語です。初めは話したいことがあっても、すぐに言葉が出てこないのが、よく使うフレーズを調べて、覚えるようにしました。また、日本の「おもてなし」として、お迎えするときのネームボードを折り紙で飾りました。

タンザニアの方をお迎えしたときには、国の位置や使用している言語等をスマートフォンで調べました。すると、野生のゾウが棲んでいることが分かったので、みんなで折り紙の象を折ってネームボードに貼りました。お会いすると、すぐにそのゾウの折り紙を見て、笑顔になってくださいました。中国の方々をお迎えしたときには、学生時代に少し学んだ中国語でコミュニケーションをとると、日本の温泉が好きだと話してくれました。また、モーリシャスという国の方々もお迎えしました。私は小学生のときに、絶滅した動物についての本に、夢中になったことがあります。モーリシャスという島には、以前ドーデーという鳥が棲んでいて、その肉はとてもおいしく、乱獲されて絶滅してしまったと書いてあったことを思い出しました。その話をすると、驚いて、ドーデーのバッジをプレゼントしてくださいました。モーリシャスでは、今もドーデーが有名だということが分かり、他にも、トンガ、ニュージーランド、チュニジア等、普段関わることのない国の方々と会って、お話をしたり、お手伝いをしたりすることができました。



この東京オリンピックのボランティアでは、特にスポーツに関わることはありませんでしたが、様々な背景をもつ人たちと出会い、チームとなって働いたことが、よい経験となりました。そして世界の人たちと関わったり、話したりして、広い地球の中にある様々な国を身近



を感じるようになりました。今まで名前しか知らなかった国、名前すら知らなかった国が、地図の中から浮かび上がって、ニュースを見ても、あの人々の国だ、と興味をもって見るできるようになりました。パリオリンピック・パラリンピックには、200近い数の国が参加します。子供たちにも、いろいろなスポーツ選手の活躍を見たり、いろいろな国に興味をもって調べたりしてほしいと思います。たとえ、テレビ越しではあっても、「世界」を身近に感じながら過ごす。そんな夏休みにしてみませんか。